

風力エネルギー学会 2025(令和7)年度 事業報告

(自：2025(令和7)年4月1日 至：2026(令和8)年3月31日)

1. 令和7年度の総括

(1) 風力発電の国内外動向

今日の世界情勢に目を向けますと、終結の見通しが立たないロシアによるウクライナ侵攻や、米国トランプ政権の予想を超える政策動向により、国際社会の安全と経済に大きな影が広がっております。さらに、新たに勃発した中東の紛争は、石油エネルギーの供給・流通にかつてない規模の影響を及ぼしています。このような国際環境を踏まえると、我が国のエネルギー安全保障の一層の強化が強く求められています。

我が国では、2025年2月に第7次エネルギー基本計画が閣議決定され、再生可能エネルギーを主力電源とする方針が改めて示されました。洋上風力発電は、2040年に30~45GWの導入を目指す国家的プロジェクトとして位置づけられています。さらに同年6月には、世界第6位の面積を有する排他的経済水域（EEZ）に関する制度整備が進み、浮体式洋上風力発電の導入に向けた大きな道筋が開かれました。加えて、港湾整備や人材育成の強化など、中長期を見据えた基盤整備も着実に進展しています。

一方で、再エネ海域利用法に基づく第1ラウンドから第3ラウンドまで、12海域・最大約5.85GWに及ぶ開発計画が進展しているものの、国内外の想定を上回る物価上昇や事業環境の変化により、第1ラウンド案件の一部では事業撤退に至る事例も生じました。このような状況を踏まえ、制度面、経済環境、さらには海外製風車の調達に至るまで、新たな環境変化に的確かつ迅速に対応していくことが求められています。

こうした中、国内の学会および産業界では、日本の風力産業と技術の再興に向けた議論が活発化しています。大学、建設、電機、重工業、材料メーカーなどが連携し、浮体式洋上風力に関する多様な研究グループが立ち上がるとともに、NEDOを中心とした研究開発も着実に進められています。かつて国産風車メーカーが国内シェアの約3割を担いながら市場撤退を余儀なくされた経験を踏まえ、「再び日本の技術力を取り戻す」という機運が具体的な動きとして現れつつあります。

このような状況の下、日本風力エネルギー学会は、研究者と産業界をつなぐ学術的ハブとして、以下に述べる諸活動を通じて、日本の風力エネルギー利用が持続的に発展するための努力を続けております。

(2) 本会の主な活動

①研究会、シンポジウム、見学会等の開催

- ・2025年4月に大型風車RNAコンポーネント研究会（新規）と風車ウェイクモデリング研究会（ウインドファーム流れ場制御研究会の後継）の2つの研究会を、また、6月には垂直軸型・小型風車設計技術研究会（垂直軸風車荷重解析技術研究会の後継）と風況調査技術研究会（新規）の2つの研究会を立ち上げました。今後も年1-2件の研究会の立ち上げを目指します。
- ・2025年11月27-28日の2日間、第47回風力エネルギー利用シンポジウムを開催しました。113件の一般研究発表と27件のポスター発表は過去最多となるもので、活況を呈しました。また、人材育成の一環として、ランチセミナー「風力業界でのキャリア形成」を開催しました。風力業界から40名ほどの若手が参加し、6つのグループに分かれてディスカッションを行いました。参加者のキャリアパスに繋がることを期待します。
- ・2025年11月14日に福島県いわき四倉風力発電所と阿武隈風力発電所の設備見学会を開催しました。会員を主体として45名が参加され、開催後のアンケート調査によれば95%の参加者に満足頂きました。今後も魅力的な見学会を企画いたします。

②機関誌、書籍等の刊行

- ・冊子版と1年後のJ-Stage電子版で発行している機関誌「風力エネルギー」を冊子版と同時発信する電子化の検討を開始しました。電子化は、品質の向上（カラー化、索引の検索機能）および冊子版の発行部数を減らした場合は、環境への配慮と物価高対策などで利点があります。
- ・機関誌の通巻153号から156号を各900部ほど刊行しました。機関誌の電子化の一環として、154号（153号は論文掲載無し）から論文集をJ-Stage（科学技術振興機構/JSTが運営する電子ジャーナル）だけに掲載することになりました。
- ・Tony BurtonらによるWind Energy Handbook 3rd editionを11名の学会員で翻訳をおこない、2025年4月に風力エネルギーハンドブック 第3版として刊行しました。基礎知識から最新の話題まで、風力発電の実用的な技術全般を体系立ててまとめた世界的な名著の翻訳であり、風力発電における問題・課題の解決やイノベーションの創出に役立つことが期待されます。

③風力エネルギー利用に関する国内ならびに海外の学術団体との連絡

- ・風力発電の導入拡大と技術の向上ならびに本会の発展と会員サービスの向上に資するものとして、国内の各団体や大学などでの風力に係る会議・発表会・セミナー・ワークショップ・シンポジウムなどに協賛又は後援機関として参加し、本会ホームページや同報メールで周知に協力しました。
- ・海外の学術団体である WWEA には会員として参加しており、各国の風力関係者との交流を図りました。
- ・また、日本の発信力の向上の為に、国際エネルギー機関の IEA では、IEA Wind Task (IEA Wind TCP) で、当学会から国内委員会委員長をはじめとして多くの委員を輩出し、幾つかの研究テーマで活動を行いました。

④風力エネルギー利用に関する資料及び情報の収集と提供

- ・第 16 回国際風力発電展 [秋] 2025 (WIND EXPO [秋] 2025)、第 17 回国際風力発電展 [春] 2026 (WIND EXPO [春] 2026)、第 20 回再生可能エネルギー世界展示会&フォーラム (RE2026) に出展しました。代表委員を中心として当学会の小間での立会いを行い、情報の発信と提供を強化しました。
- ・人材データベースを活用し、「日本の風力エネルギー利用関連教育研究機関マップ 2025 年度版」を第 47 回風力エネルギー利用シンポジウムに合わせて改定しました。データベース登録数は 71 機関となりました。QR コードを付けたポスターを作成し、シンポジウムや風力展示会で掲示した他、学会サイトにて公開しました。

2. 活動の詳細報告

(1) 総会、代表委員会、理事会の開催

- ・定時社員総会は 2025 年 5 月 30 日に開催され、2024(令和 6)年度の事業報告、収支報告、監査報告について審議の後承認されました。また、2025(令和 7)年度の事業計画、収支予算が報告・承認されました。
- ・代表委員会は 2025 年 5 月 30 日、2026 年 3 月 30 日の 2 回開催されました。各委員会委員長からの活動報告だけでなく、Web 上の掲示板 (Padlet) を使って新規学術事業、人材育成、50 周年記念行事などいくつかのテーマで活発な討議が行われました。
- ・理事会は合計 7 回(2025 年 4 月 24 日、5 月 30 日、7 月 17 日、9 月 25 日、11 月 13 日、2026 年 1 月 16 日、3 月 25 日)開催され、各種議案が審議されました。

(2) 委員会活動

企画運営委員会

委員会を 4 回、人材育成推進 WG (植田 WG 長・駒井副 WG 長) で計 3 回の交流会 (ランチセミナー 2 回を含む) を開催しました。第 47 回風力エネルギー利用シンポジウムは、ハイブリッド開催とし、新たにポスターセッションを設けました。シンポジウムでは、第 45 回及び第 46 回に引き続き、若手風力人材ネットワークづくり (ランチセミナー「風力業界でのキャリア形成」) を開催しました。代表委員などからの要望のあったシンポジウム発表論文の早期公開について、これまでシンポジウム開催 1 年後(翌年の 12 月頃)だったのを、3 月末に変更し、第 46 回シンポジウム分は 2025 年 6 月に、第 47 回分は 2026 年 3 月に公開しました。人材育成に関して、Wind Expo において洋上風力人材育成フォーラムで植田 WG 長が JWEA の人材育成の取り組みについて講演しました。また、代表委員選挙の電子化を進め、2026 年度の選挙より導入しました。2027 年 11 月に 50 周年を迎える当会の記念行事について準備を進めています。

編集委員会

6 回の委員会を開催し、学会誌の特集や論文集の編集方針等について検討しました。2025 年度の委員会は 13 名の体制を継続して、編集および校正業務を強化し機関誌「風力エネルギー」の内容の充実と Microsoft Teams を用いた DX 推進により委員会運用の最適化を図りました。学会誌は予定通り 4 回発行し、特集と発行部数は約 1,000 部です。

学術事業委員会

今年度は、学術・事業委員会から学術事業委員会に改称し、学術関連の事業に取り組みました。ウインドファームの流れ場制御研究会 (主査: 内田孝紀氏) とブレード設計・製造・O&M 調査研究会 (主査: 松信隆氏) は 2025 年 3 月に、垂直軸風車荷重解析技術研究会 (主査: 原豊氏) は 2025 年 5 月に活動を終了し、各々、風力エネルギーで最終報告をしました。代わって、大型風車 RNA コンポーネント研究会 (その 1: 機械部品) (主査: 松信隆氏) と風車ウェイクモデリング研究会 (主査: 内田孝紀氏) が 2025 年 4 月に、垂直軸型・小型風車設計技術研究会 (主査: 原豊氏) と風況調査技術研究会 (主査: 大澤輝夫氏) が 2025 年 06 月に活動を開始しました。長年取り組んでいた「風力エネルギーハンドブック (第 3 版)」が 2025 年 3 月に森北出版から発刊され、今年度は、同書の電子版が発刊されました。また、同書による学習支援策として、JWEA ホームページに Q&A のプラットフォームを開設し、運営しています (主

査：吉田茂雄氏)。

今年度は、一般向けの図書として、当学会の代表委員会の有志による「風力発電の疑問 50」の執筆を行いました(主査：吉田茂雄氏)。2026 年度早々に、成山堂書店から発刊される予定です。さらに、当学会の代表委員の有志を募り、日本船舶海洋工学会 (JASNAOE) と共同で、Offshore Wind Energy (Niesen F.G., Cambridge Press, 394 ページ) の翻訳の準備を行いました(主査：吉田茂雄氏)。

国際委員会

JWPA との新たな連携協調活動に関する意見交換を開催しました。海外団体との連携活動として GWEC(世界風力会議)との情報交換ならびに WWEA(世界風力エネルギー協会)年次総会参加により、我が国の概況に関する情報交換を行いました。また、GWEC・欧州風力協会 (WindEurope) など主要な風力団体からの発行資料収集、翻訳の実施、GWEC グローバル・ウインドデイでの連携活動などを進めました。

広報委員会

広報委員会として独立して 2 年目となりました。広報委員会の活動実績は、人材育成活動と広報関連活動に大別できます。人材育成活動としては、イベントカレンダーの新設、学会誌への特集「私の人材育成」の掲載、科学の祭典への参加、教育研究機関調査とマップの作製、人材育成推進 WG への参加(若手交流会の実施)等が挙げられます。広報関連活動としては、福島での設備見学会、Wind Expo や RE2026 といった展示会への対応、著作権管理方法に関して検討などが挙げられます。科学の祭典、設備見学会、展示会上映用の動画コンテンツの制作などで、足利大学や東邦大学の学生に協力頂いたり、展示会立合者を増やし、展示方法を工夫したことで、広報会活動の活性化が図られました。

表彰委員会

本会規程に基づき、奨励賞、論文賞、優秀発表賞、ポスター賞の表彰とともに、長井浩記念賞の表彰を実施しました。2025 年度は、委員会を 5 回開催し、各表彰の審査、準備を進めました。各表彰候補の選考過程で顕在化した表彰制度の不備や改良点についても、表彰委員会にて修正案を検討して理事会に提案し、表彰制度の改善に努めました。また、新たに学生会員のインセンティブアップに設けた優秀修士論文賞に関して公募、審査、受賞者決定をしました。

論文委員会

論文審査に関わる事項は随時メール審議を行っています。2025 年度は投稿論文 10 件を審査しました(内 4 件掲載、5 件審査中、1 件掲載不可)。その結果、2025 年度は前年度からの審査持ち越し 3 件を含め、4 件の論文と 1 件の技術報告書を論文集に掲載しました。なお、論文集は 2025 年 8 月発行の第 49 巻第 2 号(通巻第 154 号)より、完全電子化し J-STAGE で公開しています。

また、2 か月に 1 回を目途に論文委員会を Web 会議あるいはメール審議で実施し、投稿要領や査読要領の変更の検討や、論文賞候補の推薦などを行っています。

(3) 学会誌・論文集の発刊(第 49 巻)

- ・第 1 号(通巻 153 号) 2025 年 5 月発行、900 部
特集：ブレード設計・製造・O&M 調査研究会最終報告
- ・第 2 号(通巻 154 号) 2025 年 8 月発行、900 部
特集：世界の風力発電動向と我が国への示唆
- ・第 3 号(通巻 155 号) 2025 年 11 月発行、900 部
特集：風力発電機器関連産業の技術基盤振興に向けて
- ・第 4 号(通巻 156 号) 2026 年 2 月発行、910 部
特集：垂直軸風車荷重解析技術研究会の最終報告

(4) 第 47 回風力エネルギー利用シンポジウムの開催

主催：日本風力エネルギー学会

協賛：日本風力発電協会、日本分散型風力発電協会(五十音順)

後援：産業技術総合研究所、新エネルギー・産業技術総合開発機構、新エネルギー財団、ターボ機械協会、日本科学技術振興財団、日本風工学会、日本太陽エネルギー学会、日本電機工業会、風力発電推進市町村全国協議会(五十音順)

開催日：11 月 27 日～11 月 28 日

開催場所：ビジョンセンター新橋及びオンライン開催

参加者数：435 名(内、会員 385 名、一般 39 名、講師・招待者 11 名)

内容：1 日目は招待講演 I(経済産業省、国土交通省、環境省、NEDO および JOGMEC)、招待講演 II、

学会からの報告、ポスター発表及び懇親会を開催しました。招待講演 II では、浮体式洋上風力

の開発を中心に、永尾会長、NEDO、FLOWRA 及び FLOWCON から講演いただきました。懇親会の前にポスターセッションを設け、活発な議論をしていただきました。2 日目は一般研究発表そして若手風力人材ネットワークづくり（ランチセミナー）を開催しました。一般研究発表 113 件、ポスター発表は 27 件で過去最多でした。

(5) 学会研究会の実施

- ・「ブレード設計・製造・O&M 調査研究会」、「ウインドファームの流れ場制御研究会」、および、「垂直軸風車荷重解析技術研究会」の成果は、第 47 回風力エネルギー利用シンポジウムで報告されました。
- ・進行中の各分野会は、いずれも、2～3 カ月に 1 回程度、活発に議論を進めています。

(6) 本会に関わる風力関連イベントへの協力

- ・2025 年 9 月 17～19 日に開催された WIND EXPO [秋] 2025 及び 2026 年 3 月 17～19 日に開催された WIND EXPO [春] 2026 に協賛し、本会の PR ブースを出展しました。
- ・2026 年 1 月 28～33 日に開催された第 20 回再生可能エネルギー世界展示会（RE2026）に後援し、本会の PR ブースを出展しました。
- ・代表委員各位の協力を得て、ブースでの来客対応を強化しました。
- ・関連イベント

開催日程	開催場所	イベント名	関係	活動	JWEA 役員・委員の参加
2025 年 6/26-27	足利市	足利大学 第 25 回風力エネルギー利用総合セミナー	後援	講演	安田理事、駒井理事、竹内代表委員
7/18	名古屋市	日本太陽エネルギー学会 太陽光発電部会／風力・水力部会共同セミナー	後援		
7/26-27	東京都	日本科学技術振興団体 「青少年のための科学の祭典」2025 全国大会	協力	工作	駒井理事、植田理事、本庄理事、竹内代表委員、飯野代表委員
8/17-20	北海道	日本雪氷学会・日本雪工学会 第 21 回 構造物の大雪着氷に関する国際ワークショップ (IWAIS 2026)	後援		
9/8-10	秋田市、由利本荘市、能代市、	洋上風力発電秋田学生ワークショップ 2025 実行委員会 洋上風力発電と地域との価値共創を考える学生ワークショップ	協力		竹内代表委員
9/17-19	千葉市	RX Japan WIND EXPO [秋] 2025 ～ 第 16 回 [国際] 風力発電展～	後援	展示	永尾会長、今村副会長、三保谷理事、松信理事、駒井理事、植田理事、鈴木監事、佐藤代表委員、飛永代表委員、橋本代表委員、飯野代表委員、高橋代表委員、林代表委員
10/15-17	秋田市	日本風力発電協会 Global Offshore Wind Summit Japan 2025	後援		
11/1-2	習志野市	日本大学 第 18 回風力発電コンペ (WINCOM2025)	後援	審査	植田理事、上田理事
11/2-3	東京都	日本太陽エネルギー学会 令和 6 年度研究発表会	協賛		
11/14	いわき市	日本風力エネルギー学会 阿武隈風力発電所、いわき四倉風力発電所見学会	主催	見学会	本庄理事、飛永代表委員、三保谷理事
11/29-30	足利市	足利大学 風力発電に関する工作教室	後援		飯野代表委員

12/3-5	Shantou (中国)	WWEA WVEC 2025	加盟		荒川代表委員
2026年 1/28-30	東京都	再生可能エネルギー協議会 第20 回再生可能エネルギー世界展示会 &フォーラム (RE2026)	協賛	展示 講演	駒井理事、本庄理事、鈴木監 事理事、橋本代表委員、松信 理事、吉田理事、佐藤代表委 員、福本代表委員
3/17-19	東京都	RX Japan WIND EXPO [春] 2026 ~ 第17回 [国際] 風力発電展~	後援	展示	永尾会長、鈴木理事、駒井理 事、本庄理事、鈴木監事、佐 藤代表委員、橋本代表委員、 飛永代表委員、飯野代表委員、 田中代表委員
3/19	東京都	世界洋上風力フォーラム (WFO) 第 4回 Offshore Wind Student Day	協力		植田理事

(7) 表彰の実施

- ① 本会の令和7年度総会(2025年5月30日)において、以下のとおり各賞の表彰を行いました。
- ・(功労賞、学会賞は対象なし。)
 - ・奨励賞：澁谷光一郎氏
 - ・論文賞：西山恒平氏ほか
 - ・優秀発表賞：坪井咲季氏、大林和輝氏、宋云鵬氏、宮野展宏氏、澁谷光一郎氏、大井翔生氏、吉水謙氏、藤川凜太郎氏、新谷達哉氏、圓尾太朗氏
 - ・ポスター賞：林義之氏ほか(ベストポスター賞)、川端浩和氏ほか
- ② 学会外への特別表彰として、以下の表彰を行いました。
- ・日本風力エネルギー学会 長井浩記念賞(2025年11月2日 第18回風力発電コンペ WINCOM2025にて)
受賞者：山形県立村山産業高等学校チーム

(8) 学会誌、論文集、予稿集を J-STAGE に掲載

- ・学会誌(通巻152号まで)、論文集(通巻156号まで)及びシンポジウム予稿集(第47回まで)の電子化と J-STAGE での定期的な公開を通じて、本会のプレゼンスを向上するとともに、会員の記事や論文を広く公開することにより、引用数の増加及び業績評価にも貢献いたしました。

(9) 会員の状況(令和8年3月31日現在の会員数)

- ・特別団体会員：23 団体 (前年度末 23 団体)
會澤高圧コンクリート(株)、(株)ウインドエナジーコンサルティング、ENEOS リニューアブル・エナジー(株)、M&T(株)、カナデビア(株)、(株)グリーンパワーインベストメント、コスモエコパワー(株)、清水建設(株)、(株)ジャパンウィンドエンジニアリング、GE Verona International LLC、電源開発(株)、DENZAI(株)、(株)東芝、戸田建設(株)、(一財)日本海事協会、(一財)日本気象協会、日本風力開発(株)日立製作所、日本風力エネルギー(株)、(株)北拓、(株)ユーラスエナジーホールディングス、(株)レノバ、若築建設(株) (五十音順)
 - ・団体会員：102 団体 (前年度末 110 団体)
 - ・個人会員：394 名 (前年度末 379 名)
 - ・学生会員：28 名 (前年度末 42 名)
 - ・特別会員：6 名 (前年度末 6 名)
 - ・海外会員：2 名 (前年度末 1 名)
 - ・名誉会員：5 名 (前年度末 6 名)
 - ・購読会員：7 名 (前年度末 9 名)
-
- 合計：567 団体/名 (前年度末 576 団体/名)

以上